

# 文化財調査報告書

調査日：平成 25 年 10 月 17 日

調査委員：赤坂 信・成田篤彦

- 1 種 別 名勝
- 2 名 称 鋸山と羅漢石像群
- 3 指 定 年 月 日 昭和 29 年 12 月 21 日（昭和 50 年 11 月 14 日告示）
- 4 所 在 地 鋸南町元名 184-1
- 5 所 有 者 宗教法人 日本寺

## 6 調査までの経緯：

県指定名勝「鋸山と羅漢石像群」は、聖武天皇の勅願によって神亀 2（725）年に行基によって開かれたといわれる乾坤山日本寺の敷地の一部である。鋸山の急斜面に、通路が設けられ、岩肌のくぼみに羅漢石像群が並ぶ。羅漢石像群は東海千五百羅漢ともいわれ、安永 9（1780）年に上総桜井（現在の木更津市）の大野甚五郎英令が、門弟 27 人と 21 年をかけて彫ったものである。伊豆石を用いており、顔の表情が豊かで一つとして同じものはないといわれている。

鋸山の稜線を挟んで、指定地の反対側は房州石の石切り場となっており、切り立っている。頂上からは東京湾や山並みが望め、眺望が素晴らしく、観光名所となっている。また、本年度から、指定地に隣接する境内に昭和 14 年に消失した本堂の再建がはじまる。

今回は、特に羅漢石像群の状況等に注意し、指定地の状況の調査を行った。

## 7 現状及び取り扱いの留意事項：

### <現状>

本堂再建予定地は、指定地の斜面の下側に面し、すでに十分な平坦な土地がある。デザインや大きさを留意すれば、指定地の景観を損ねることはないと考えられ、所有者と県は、その方向で協議済みであるとのことであった。しかし、境内から指定地方向をみると、尾根付近に電線や電柱があり景観を損ねていた。

指定地は、境内の上部に位置し、斜面の下部は常緑樹林におおわれており、尾根に近いところでは岩塊が露出している。森林の状況は良好であるが、大仏広場にはイノシシの掘り返した跡が見られた。

指定域には、崖を掘り出した大仏（薬師瑠璃光如来）のほか、崖の窪地には羅漢石像群がある。大仏は、亀裂等をコンクリートで補修されていた。また、羅漢石像群は、頭部が取れるなどの損傷がみられ、頭部を補修した像も多い。なかには、胴体部と頭部の石材に違いがある像もあった。

通路は、てっぺん石を中心とした自然石を用いた階段が整備され、歩きやすく、意匠性も高い。途中いくつかの小さな滝があるが、その一つの滝では、塩ビ管から水が流れ落ちており、景観を損ねていた。

指定地域外ではあるが、ロープウェイの頂上駅には、房州石の歴史や石を用いて建築された建造物の写真等が紹介されている小さな展示場があった。展望台には房州石で造られた郵便ポストがあり、この地域の産業を表現するよい構造物であった。

#### <取り扱いの留意事項>

全体的に大きな問題はないと考えられる。

損傷の見られる羅漢石像群は、無理に修復すると頭部と胴体部の不一致などを生むので、できる範囲で修復を考えればよい。

通路は意匠性も含め、よく整備されているが、水路に用いられている塩ビ管などは目立たないよう工夫をすると、さらに良い環境になる。

頂上部の電柱や電線は景観を損ねているので、指定地外であっても、今後、高さを低くしたり、埋設するなど、事業者に改善を促したほうがよい。

生物的には、周辺環境を含めて良い自然環境が保たれており、貴重な動植物の生息地となっている。住職の話によれば、周辺ではアライグマやハクビシン、シカ、キョン、イノシシが確認されており、指定地においても特にイノシシの害が多い。また、アライグマやハクビシンは知らないうちに建物に害を及ぼすことがあるので、柱などに引っかき傷等がないか、常に注意する必要がある。



現在の仮本堂（書院）と本堂建設予定地



尾根に見える電柱



←大仏

イノシシの痕跡→



←塩ビ管から流れる滝



羅漢像群→



←頭部と胴体に違和感のある像

